

申請書

6. 事業内容	<p>本事業では、「北部州イースト・マンプルーシー郡の2歳未満児の栄養と健康状態が改善する」ことを上位目標として掲げ、以下を事業の3本柱として、3つの柱の下に諸活動が構成されている。</p> <p>(1) 乳幼児の保護者らを対象とした乳幼児の栄養啓発活動 (2) 乳幼児の保護者らを対象とした乳幼児の食習慣の改善活動 (3) 女性の経済的エンパワメント</p> <p>これら3つの事業柱は、「持続可能な開発目標(SDGs)」と「TICADVIにおける日本国の取組」の以下に該当する。</p>						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%; text-align: left;">3つの事業柱</th> <th style="text-align: left;">該当する「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標とターゲット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">(1) 及び(2)</td> <td style="padding: 5px;"> <p>目標 2: 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p> <p>2.2: 5歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。</p> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">(3)</td> <td style="padding: 5px;"> <p>目標 1: あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p> <p>1.4: 2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。</p> <p>目標5: ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。</p> <p>5.1: あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。</p> <p>5.5: 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	3つの事業柱	該当する「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標とターゲット	(1) 及び(2)	<p>目標 2: 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p> <p>2.2: 5歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。</p>	(3)	<p>目標 1: あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p> <p>1.4: 2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。</p> <p>目標5: ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。</p> <p>5.1: あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。</p> <p>5.5: 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。</p>
3つの事業柱	該当する「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標とターゲット						
(1) 及び(2)	<p>目標 2: 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p> <p>2.2: 5歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。</p>						
(3)	<p>目標 1: あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p> <p>1.4: 2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。</p> <p>目標5: ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。</p> <p>5.1: あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。</p> <p>5.5: 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。</p>						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%; text-align: left;">3つの事業柱</th> <th style="text-align: left;">該当する「TICADVIにおける日本国の取組」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">(1) 及び(2)</td> <td style="padding: 5px;"> <p>II 強靱な保健システム促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全ての人々が保健サービスを楽しむことができるアフリカへ(アフリカにおけるUHC推進) ・ 保健の基礎となる栄養状態を“食と栄養のアフリカ・イニシアチブ(IFNA)”の創設、“栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)”の設置等を通じて改善する。 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">(3)</td> <td style="padding: 5px;"> <p>I 経済の多角化・産業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民間セクターへの資金供給 ・ 女性のビジネス参画を促すため、女性起業家を対象にしたマイクロクレジットを実施。 </td> </tr> </tbody> </table>	3つの事業柱	該当する「TICADVIにおける日本国の取組」	(1) 及び(2)	<p>II 強靱な保健システム促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全ての人々が保健サービスを楽しむことができるアフリカへ(アフリカにおけるUHC推進) ・ 保健の基礎となる栄養状態を“食と栄養のアフリカ・イニシアチブ(IFNA)”の創設、“栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)”の設置等を通じて改善する。 	(3)	<p>I 経済の多角化・産業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民間セクターへの資金供給 ・ 女性のビジネス参画を促すため、女性起業家を対象にしたマイクロクレジットを実施。
3つの事業柱	該当する「TICADVIにおける日本国の取組」						
(1) 及び(2)	<p>II 強靱な保健システム促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全ての人々が保健サービスを楽しむことができるアフリカへ(アフリカにおけるUHC推進) ・ 保健の基礎となる栄養状態を“食と栄養のアフリカ・イニシアチブ(IFNA)”の創設、“栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)”の設置等を通じて改善する。 						
(3)	<p>I 経済の多角化・産業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民間セクターへの資金供給 ・ 女性のビジネス参画を促すため、女性起業家を対象にしたマイクロクレジットを実施。 						
	<p>前述の3つの事業の柱の下、3年次では下記の活動を実施する。</p> <p>(1) 乳幼児の保護者らを対象とした乳幼児の栄養啓発活動</p> <p>活動④: 各栄養啓発員を対象とした振り返り会議【定期再研修】</p> <p>栄養啓発活動を担う計419名の栄養啓発員(コミュニティ・ヘルス・ボランティア(GHV)146名/村落貯蓄貸付組合(VSLA:Village Saving and Loans Association)内の栄養教育係138名/男性啓発員135名)を対象に、2年次下半期以降3年次を通して、再研修を定期的実施する。最初の研修から時間</p>						

が経過することで、記憶があやふやとなり、自己流のやり方に陥る等、最終的にはコミュニティでの栄養啓発の質にも影響する。このため、毎月、CAREのプロジェクト・ファシリテーターの指導の下、栄養メッセージに関して繰り返し学習する再研修の場を設ける。再研修では、12の栄養メッセージの中から再研修毎に1~2の栄養メッセージを取り上げ、集中的に学び直すことで、最初の研修で学んだことの定着を図る。また、再研修の場では、啓発活動を進める中で発生する課題や栄養情報の普及具合等について振り返りも行い、栄養啓発員の活動の進め方について適宜、必要な改善を図ってゆく。3年次では6回の開催を予定している。

活動⑦：保護者を対象とした栄養啓発員(CHV、栄養教育係、男性啓発員)による乳幼児の栄養啓発メッセージに関する教育セッション

2年次下半期以降3年次を通して、以下419名の栄養啓発要員が栄養啓発メッセージをコミュニティ内で普及してゆく。

栄養啓発員のタイプ	活動内容
コミュニティ・ヘルス・ボランティア (CHV) : 146名	CHVによる栄養教育セッションでは、定期コミュニティ会議の場を利用して、主に乳幼児の保護者らを対象に、乳幼児の栄養に関する啓発メッセージを伝授する。また、世帯訪問を積極的に行うこと(アウトリーチ方式)で、より多くの潜在的な受益者をカバーすることが期待できる。
栄養教育係 : 138名	新旧138のVSLAのメンバーの中から選定された138名の栄養教育係による栄養教育セッションでは、VSLAの定例会議の場を利用して、VSLAのメンバーを対象に乳幼児の栄養に関する啓発メッセージと食習慣について話し合う。
男性啓発員 : 135名	本事業では子どもの栄養改善は、子どもの母親の責任とする風潮を払拭するため、男性の巻き込みが様々なレベルで行われている。その一つが男性啓発員による男性への啓発である。男性啓発員による栄養教育セッションでは、定期コミュニティ会議の場を利用して、主に父親を対象に対話の場を設け、家族の健康に関する課題や、父親の役割について話し合う。

これら栄養教育セッションは、3年次では、各60コミュニティで6回の開催を予定している。また、栄養メッセージを伝える啓発ツールとして1年次に開発した12の栄養メッセージを盛り込んだ「カウンセリング・カード」を教育セッションでは利用する。また、男性を対象とした教育セッションでは「父親ポスター」を利用する。

活動⑨：コミュニティ・リーダー及び男性を対象とした乳幼児の栄養と健康に関する理解促進のためのコミュニティ全体会議の開催

本活動は、活動⑦の中の男性啓発員による教育セッションの中で行われる。コミュニティの男性リーダーに働きかけることで、彼らに子どもの栄養は地域全体の責任であるという認識を強く持ってもらい、リーダーが率先してコミュニティ全員の意識付けを図ることを目指した取り組みである。コミュニティの男性リーダーとコミュニティの男性(主に父親)が一緒でのセッションは、リーダーが率先して他の男性の意識付けを促進するという効果が期待される。

(2) 乳幼児の保護者らを対象とした乳幼児の食習慣の改善活動

活動①：栄養教育係を対象とした調理実演のためのTOT(訓練者養成)研修

活動②：保護者らを対象とした適切な食事の摂取習慣に関する調理実演会

2年次下半期以降3年次を通して、VSLA内の栄養教育係によって、調理実演会を各60コミュニティで開催する。参加者は三色栄養素の取り方、野菜の

調理法、タンパク質を増す食事、大豆レシピ、鉄分を増す食事について学ぶ。また、乳幼児に不足しがちな栄養素を付加する栄養補助サプリメント「ココプラス」を本事業では導入している。「ココプラス」の効果を引き出すには、栄養に関する知識と効果的な食事の摂取方法を乳幼児の保護者らが身に付けていることが不可欠である。よって、調理方法の紹介では、栄養価を付加する「ココプラス」の利用方法を併せて実演してゆく。また、各調理実演に先立ち、イースト・マンブルーシー郡農業開発部の女性農業課と協力して、栄養教育係を対象とした養成訓練も併せて実施する。3年次では、各60コミュニティで2回を予定している。

活動④：演劇グループを対象としたリハーサル開催

活動⑤：保護者らを対象とした演劇グループによる寸劇

2年次下半期以降3年次を通して、各60コミュニティでは、61の演劇グループ(計610名のメンバー)による30分~45分の寸劇が開催される。寸劇の中では、調理法の改善方法や「ココプラス」の利用方法並びに「カウンセリング・カード」の主要な栄養メッセージについて紹介される。寸劇を通して、栄養啓発メッセージを伝播するやり方は、日常生活の様々な局面で歌い踊ることがコミュニティで浸透している現地文化への親和性も高く、効果が期待される。また、各寸劇の開催に先立ち、CAREのプロジェクト・ファシリテーターの指導の下、各演劇グループではリハーサルを実施する。3年次では、各60コミュニティで3回を予定している。

活動⑨：1年次に育成した女性起業家による「ココプラス」の需要創出

VSLAメンバーの中から選定された137名の女性起業家は、2年次下半期以降3年次を通して、「ココプラス」の販売促進活動を展開してゆく。具体的には、各60コミュニティで、月2回「ココプラスの日」(一斉訪問販売キャンペーン)を設ける。「ココプラスの日」では、女性起業家が直接、家庭を訪問し「ココプラス」を販売する訪問販売方式を取り入れる。「ココプラス」は1回~2回を気まぐれに摂取したからといって乳幼児の栄養状態の改善には繋がらず、ある一定の期間、定期的に摂取することが肝要である。よって、女性起業家による定期的な家庭訪問による販売は、対象世帯と顔の見える関係性を構築でき、乳幼児への定期的な摂取を促す点においても効果的である。

(3) 女性の経済的エンパワメント

VSLAの設立、VSLAの運営研修、「ココプラス」の販売促進を担う女性起業家の育成等、3つ目の事業柱にかかる諸活動は全て1年次に実施した。但し、2年次以降3年次で実施する活動において中心的な役割を担う栄養教育係や女性起業家はVSLAのメンバーであり、またVSLAが活動の基盤ともなっている。よって、CAREは、1年次で設立運営支援した138のVSLAへの定期的なフォローアップを行う。具体的には、各VSLAの定期会合や配当金の配当時には、CAREのプロジェクト・ファシリテーターと現地パートナー団体PAREDのスタッフが立ち会い、VSLAの運営ガイドラインに則り会合や配当が行われているか、また、議長や書記、会計担当等の役割をそれぞれのVSLAメンバーが果たしているか等、見てゆく。このフォローアップによって、それぞれのVSLAの弱い部分が確認でき、都度、必要な技術支援¹を行うことでVSLAの運営強化を図ってゆく。その一環として女性起業家への助言も行う。

(4) その他(モニタリング&評価)：

活動④：四半期毎の事業スタッフ及びパートナー団体との能力強化セッション

事業の質の担保と実施に携わるスタッフの能力強化の一環として、四半期毎

¹ 例として、参加者から反則とみなされないように数を計算してゆく指導、会合での議事進行が滞った場合の運び方の指導、メンバー間の同意形成の指導、会合で手順をはぶいた場合は、あらかじめ該当するガイドラインを示しその順守の重要性を説明する等、多種多様な技術指導が含まれる。

	<p>に活動を振り返る場を設ける。振り返り会議には、普段は 60 コミュニティにて、活動の企画実施とモニタリングに従事している CARE のプロジェクト・ファシリテーターとパートナー団体 PARED のスタッフが会する。そして、現地プロジェクト・マネージャーと日本人現地事業責任者が議事進行し、四半期中の活動の進捗状況や課題について話あい、次の四半期に向けたアクションプランを確認する。進捗の確認～課題の確認～課題解決や改善に向けたアクションプランの確認に至る一連の作業によって、事業の質を担保してゆく。また、これら一連の作業を通して、事業スタッフは活動の企画から進捗管理までの管理能力を更に強化し、そしてコミュニティで日々発生する課題への対応能力を身につけゆくことが期待されている。</p> <p>活動⑤：エンドライン調査</p> <p>事業終了年度にあたる 3 年次の後半には、外部コンサルタントに委託してエンドライン調査を実施する。1 年次で実施したベースライン調査時点からの乳幼児の栄養状態や保護者の栄養についての知識レベル、また女性の経済的な参画状況についての変化を測るとともに、成功要因の分析と残された課題を洗い出す。</p> <p>エンドライン調査の結果は郡保健局及び連携先である味の素ファンデーションにも共有し教訓を共有する。本事業の対象地域イースト・マンブルーシー郡では、乳幼児の栄養に関する分析データは少なく、本エンドライン調査の結果が郡保健局の今後の政策策定にも有効に活用されることが期待される。また、将来の類似事業や事業のスケールアップを視野に入れ、今後の栄養改善に関する事業の指針作りにも役立ててゆく。</p>
	<p>裨益人口</p> <p>(1) 直接裨益者</p> <ul style="list-style-type: none"> - 乳幼児の保護者ら：約 25,690 人(女性約 13,120 人、男性約 12,570 人) - 新旧 VSLA の女性起業家：137 人 - 栄養啓発員：419 人 (CHV、栄養啓発係、男性栄養啓発員) <p>(2) 間接裨益者</p> <ul style="list-style-type: none"> - 60 のコミュニティ住民：約 78,000 人 (上記直接裨益及び約 6,240 人の 2 歳未満児を含む)
<p>7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など</p>	<p>(1) これまでの成果 (実施した事業内容とその具体的成果)</p> <p>1 年次開始 (2016 年 2 月) から 3 年次事業概要提出時 (2017 年 7 月末時点) までの約 1 年半の実績を以下にまとめる。</p> <p>(1)-1:1 年次までの活動実績：</p> <p>① カウンセリング・カードと父親ポスターの開発： 栄養啓発教材として、栄養メッセージが盛り込まれたカウンセリング・カード (350 部) と父親ポスター (800 部) を開発した。これらは栄養啓発メッセージを対象コミュニティに伝播する際のツールとして積極的に活用されている。</p> <p>② 栄養啓発メッセージを普及するための演劇グループの設立： 各 60 コミュニティで、寸劇を通して栄養啓発メッセージを伝播する計 61 の演劇グループを設立した。各グループ 10 名で、男性 305 名女性 305 名から成る。</p> <p>③ 新規村落貯蓄貸付組合 (VSLA) の設立と運営研修： VSLA を新規で 118 設立しその運営研修を実施した。メンバー総数 3,334 名で女性 2,852 名、男性 482 名から成る。</p> <p>④ 「ココプラス」の需要創出と販売促進をする女性起業家の育成： 上記③で設立された 118 の新規 VSLA と 20 の既存 VSLA のメンバーの中から、栄養補助サプリメント「ココプラス」の需要創出と販売促進を担う女性起業家 137 名を選定し研修を実施した。</p> <p>⑤ 「ココプラス」を販売する既存の卸との契約と研修：</p>

メインの卸及び4つの新たな卸(支部的な卸)と「ココプラス」の販売会社との間で、販売にかかる契約が締結されたことに伴い、新たな4つの卸に対しては、「ココプラス」の役割や利益率等について研修を実施した。卸からココプラスを購入した女性起業家が各コミュニティに戻り販促活動に従事する。女性起業家によるコミュニティでの販促活動を可能とする販路体制を整備した。

(1)-2:2 年次上半期までの(2017年7月末)活動実績:

①コミュニティ・ヘルス・ボランティア(CHV)の選定と栄養普及研修:

②村内貯蓄貸付組合(VSLA)メンバーからの栄養教育係の選定と栄養普及研修:

③男性啓発員の選定と栄養普及研修:

コミュニティで栄養啓発活動を担う計419名(CHV:146名男性91名女性55名/栄養教育係:全女性138名/男性啓発員:全男性135名)の栄養啓発員を選定し育成した。

④保護者を対象としたCHV、栄養教育係、男性啓発員による乳幼児の栄養啓発メッセージに関する教育セッション:

⑤コミュニティ・リーダー及び男性を対象とした乳幼児の栄養と健康に関する理解促進のためのコミュニティ全体会議:

上記①②③で選定と研修を終えた栄養啓発員による、各コミュニティでの教育セッションは2017年5月後半から順次開始された。7月末までの実績は以下の通りである

栄養啓発回数	セッション数	男性参加者	女性参加者	参加者計
CHVによる	283	1,609	2,492	4,101
栄養教育係による	639	716	5,778	6,494
男性啓発員による	344	2,910	0	2,910
総計	1,266	5,235	8,270	13,505

⑥女性起業家による「ココプラス」の需要創出

2017年8月以降に開始予定の月2回の「ココプラスの日」(女性起業家による一斉訪問販売キャンペーン)に先立ち、定期コミュニティ会議の場を利用して、「ココプラス」の栄養効果や食事の中での取り入れ方等について、コミュニティでの知識の普及活動を行った。

(1)-3:1 年次~2 年次上半期までの成果の総評:

①成果発現への布石となる活動:人材育成

事業開始から1年半の時点で、上位目標(対象地域における2歳未満児の栄養と健康状態の改善)に寄与する成果レベルの達成度を定量的に測ることは難しい。本事業では成果レベルの指標として以下のような指標を掲げている。

- ・対象受益者が乳幼児の栄養に関して理解を深める。
- ・対象受益者が適切な調理を実践するようになる。
- ・「ココプラス」を定期摂取する世帯が増える。
- ・「ココプラス」の販売実績により女性の収入が向上する。

これらは人々の意識と行動の変容を伴う成果指標であり、意識と行動の良き変化には、受益者層への一定期間の継続的な働きかけが不可欠となる。2年次下半期以降3年次を通して実施される栄養啓発活動や「ココプラス」の販促活動は、まさに意識と行動の良き変化を促す継続的な働きかけであり、よって、2年次後半以降、徐々に成果が発現してゆくことが期待される。一方で、2年次上半期までの活動は、成果発現への布石を敷いた活動と捉えることができる。2年次上半期までは、栄養啓発活動を担う人材の選定と育成に焦点を置いてきた。今後は、育成された人材が各コミュニティで受益者層に働きかけ栄養啓発メッセージを効果的に伝播してゆくことになる。これら人材の育成無くして受益者層の良き変化は起こらず、乳幼児の栄養改善は成しえない。

②男性の巻き込み:

本事業では女性だけでなく男性にも乳幼児の栄養と健康についての意識付け

を図るため、男性の積極的な巻き込みを図っている。栄養啓発活動を担う人材についても男性の巻き込みは体现されており、栄養啓発員 419 名の構成は、女性 193 名、男性 226 名であり、演劇グループのメンバーは、女性 305 名、男性 305 名である。人材育成面での男性の巻き込みは一定の達成が認められる。

(2) これまでの事業を通じての課題・問題点と対応策

① 村内貯蓄貸付組合 (VSLA) の継続性 :

1 年次完了報告の中で詳述した通り、VSLA の活動はガーナ北部では一般的で多くの NGO が参入している。しかしながら、NGO による介入の終了と同時に活動が不活発となるケースも散見される。そのような中、CARE が過去に設立した VSLA は、他団体が設立した VSLA と比較して事業終了後も活動を積極的に継続している傾向にある。ガーナ北部の VSLA 活動は当団体が確立した手法であることから、蓄積された多くのケースを基に VSLA の設立・運営のガイドラインが構築されてきた。ガイドラインに忠実な運営が、VSLA の活動の継続性に寄与していると考えられる。しかしながら、この事実に甘んじることなく継続性への取り組みは必要である。VSLA の設立と運営研修及び女性起業家を選定育成する活動は 1 年次までに終了した。本来であれば、2 年次以降、対象 VSLA は自立的に運営されることが期待される。しかしながら、VSLA の運営体制の成熟度は時間の経過とともにばらつきが出てくるのが過去の経験からも明らかである。よって、2 年次以降も VSLA の定例会議の場等には、CARE のプロジェクト・ファシリテーターが立ち会い、運営体制の整備をフォローしてゆくとともに女性起業家への助言を行い、VSLA の更なる基盤強化にあたってゆく。

② 農繁期を避けた活動時期の調整 :

ガーナ北部では年により変動はあるものの、5 月に雨季が始まり、雨季の始まりと共に農作時期が始まり、8 月から 9 月にかけて最初の収穫時期を迎え 11 月に最後の収穫時期を迎える。収穫を迎える前までが農繁期にあたる。この間、多数のコミュニティ住民の動員を想定した活動の実施、具体的には調理実演の開催は適していないことも明らかとなった。また、調理実演では、ローカルで育ち入手できる食物を使用することを予定しており、栄養価の高いローカルの野菜類が豊富に手に入る収穫後の開催が理に適ってもいる。よって、コミュニティのリーダーと協議し、農繁期を避け収穫後の時期に併せる形で活動時期の再調整を行うことで合意した。結果、3 年次の以下の活動については当初予定していた開催回数を減らす。回数を減らすことによる活動の質への影響を排するため、栄養啓発員を対象とした定期的な再研修では、1 回の再研修で学び直す栄養メッセージの項目数を 1 から 2 に増やすことで、栄養啓発を担う人材の質を保ち、コミュニティの住民には必要な栄養メッセージを過不足なく伝播し浸透させてゆく。よって成果レベルにおける影響はない。

1) 419 名の各栄養啓発員を対象とした定期的な再研修

・当初計画 9 回 ⇒ 6 回の実施

2) 栄養教育係を対象とした調理実演のための TOT (訓練者養成) 研修

・当初計画 3 回 ⇒ 2 回の実施

3) 保護者らを対象とした適切な食事の摂取習慣に関する調理実演会

・当初計画 3 回 ⇒ 2 回の実施

(3) 「持続可能な開発目標 (SDGs)」の該当目標への寄与

事業開始から 1 年半が経過した時点において、主に人材育成の面で成果発現に向けた下地作りができた。具体的には以下の活動実績が将来的な成果発現に繋がると思料する。

該当目標	当該目標への寄与に繋がる活動実績
目標 2/ターゲット 2.2	対象コミュニティで栄養普及の担い手となる栄養啓発員計 419 名の選定と研修を終え、各栄養啓発員による各コミュニティでの啓発活動が開始された。

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="481 161 794 197">目標 1/ターゲット 1.4</td> <td data-bbox="817 161 1497 331" rowspan="2">女性の収入創出にも繋がる村内貯蓄貸付組合 (VSLA) を設立し、また、VSLA 内で計 137 名の女性起業家の選定と育成を終え、VSLA からの貸付を基に、女性起業家による栄養補助サプリメント「ココプラス」の販売が開始されたことを挙げるができる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 197 794 232">目標 5/ターゲット 5.5</td> </tr> </table>	目標 1/ターゲット 1.4	女性の収入創出にも繋がる村内貯蓄貸付組合 (VSLA) を設立し、また、VSLA 内で計 137 名の女性起業家の選定と育成を終え、VSLA からの貸付を基に、女性起業家による栄養補助サプリメント「ココプラス」の販売が開始されたことを挙げるができる。	目標 5/ターゲット 5.5			
目標 1/ターゲット 1.4	女性の収入創出にも繋がる村内貯蓄貸付組合 (VSLA) を設立し、また、VSLA 内で計 137 名の女性起業家の選定と育成を終え、VSLA からの貸付を基に、女性起業家による栄養補助サプリメント「ココプラス」の販売が開始されたことを挙げるができる。						
目標 5/ターゲット 5.5							
	<p>(4) 「TICADVI における日本国の取組」 への寄与</p> <p>上述した「持続可能な開発目標 (SDGs)」への寄与と同様に、主に人材育成にかかる以下の活動実績が将来的な「TICADVI における日本国の取組」への寄与に繋がると思料する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="481 533 970 568">該当部分</th> <th data-bbox="976 533 1497 568">該当部分の寄与に繋がる活動実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="481 568 970 721"> 「II 強靱な保健システム促進」 ● アフリカにおける UHC 推進 ・保健の基礎となる栄養状態の改善 </td> <td data-bbox="976 568 1497 721"> 対象コミュニティで栄養普及の担い手となる栄養啓発員計 419 名の選定と研修を終え、各栄養啓発員による各コミュニティでの啓発活動が開始された。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 721 970 972"> 「I 経済の多角化・産業化」 ● 民間セクターへの資金供給 ・女性のビジネス参画を促すため、女性起業家を対象にしたマイクロレジット </td> <td data-bbox="976 721 1497 972"> 女性の収入創出にも繋がる村内貯蓄貸付組合 (VSLA) を設立し、また、VSLA 内で計 137 名の女性起業家の選定と育成を終え、VSLA からの貸付を基に、女性起業家による栄養補助サプリメント「ココプラス」の販売が開始された。 </td> </tr> </tbody> </table>	該当部分	該当部分の寄与に繋がる活動実績	「II 強靱な保健システム促進」 ● アフリカにおける UHC 推進 ・保健の基礎となる栄養状態の改善	対象コミュニティで栄養普及の担い手となる栄養啓発員計 419 名の選定と研修を終え、各栄養啓発員による各コミュニティでの啓発活動が開始された。	「I 経済の多角化・産業化」 ● 民間セクターへの資金供給 ・女性のビジネス参画を促すため、女性起業家を対象にしたマイクロレジット	女性の収入創出にも繋がる村内貯蓄貸付組合 (VSLA) を設立し、また、VSLA 内で計 137 名の女性起業家の選定と育成を終え、VSLA からの貸付を基に、女性起業家による栄養補助サプリメント「ココプラス」の販売が開始された。
該当部分	該当部分の寄与に繋がる活動実績						
「II 強靱な保健システム促進」 ● アフリカにおける UHC 推進 ・保健の基礎となる栄養状態の改善	対象コミュニティで栄養普及の担い手となる栄養啓発員計 419 名の選定と研修を終え、各栄養啓発員による各コミュニティでの啓発活動が開始された。						
「I 経済の多角化・産業化」 ● 民間セクターへの資金供給 ・女性のビジネス参画を促すため、女性起業家を対象にしたマイクロレジット	女性の収入創出にも繋がる村内貯蓄貸付組合 (VSLA) を設立し、また、VSLA 内で計 137 名の女性起業家の選定と育成を終え、VSLA からの貸付を基に、女性起業家による栄養補助サプリメント「ココプラス」の販売が開始された。						
8. 期待される成果と成果を測る指標	<p>1 年次及び 2 年次では活動レベルの指標が中心であったが、事業最終年度の 3 年次については成果レベルの指標の達成が期待される。具体的な成果レベルの指標は下記の通りである。尚、プロジェクト・チームとの協議の結果、成果 3「女性の経済的なエンパワメント」に関する指標が十分でないとの見解に達し、2 つの成果指標を追加した。また、上記「7. (2) これまでの事業を通じての課題・問題点と対応策」で詳述した通り、農繁期を避け活動時期を調整した結果、活動指標のいくつかは下方修正され総括表に反映した。添付の総括表を参照のこと。</p> <p>(1) 乳幼児の保護者らを対象とした乳幼児の栄養啓発活動</p> <p>① 成果 1:</p> <p>コミュニティ・ヘルス・ボランティア (CHV)、村内貯蓄貸付組合 (VSLA) 内の栄養教育係及び男性啓発員らによる栄養啓発メッセージの普及によって、乳幼児の保護者らが乳幼児の栄養と健康に関する知識を身に付けるようになる。</p> <p>この成果 1 においては、栄養啓発活動に参加したコミュニティ内の乳幼児の保護者や男性並びにコミュニティ・リーダーが、乳幼児の栄養に関して理解を深め、栄養改善に向けて意識と行動が変わることで、SDGs の目標 2 のターゲット 2.2 の実現に寄与する。また「TICADVI における日本国の取組」の「II 強靱な保健システム促進」の中の、とりわけ「保健の基礎となる栄養状態の改善」に寄与する。</p> <p>② 成果 1 を測る指標：【3 年次】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) CHV、栄養教育係、男性啓発員らが普及する栄養啓発メッセージを受け取った保護者らの 60%は、乳幼児の栄養について理解を深める。 2) 男性啓発員が主催する男性会議に参加した男性の 60%は乳幼児の栄養改善について積極的な意見を表明する。 3) 60%のコミュニティ・リーダーが健康と栄養に関係する社会・文化的慣習の問題点を理解する。 <p>③ 成果 1 の指標の確認方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) モニタリング報告書 2) 参加者リスト 3) CHV、栄養教育係、男性啓発員へのフォーカスグループインタビュー 						

- 4) 保護者らへの満足度・理解度調査(インタビュー式)
- 5) コミュニティ・リーダーへのフォーカスグループインタビュー(リーダーが、どの程度、栄養メッセージを理解し子どもの発育を妨げるような旧弊を変えることの重要性を理解した上で、実際に周囲に働きかけているかを検証するためのインタビュー)
- 6) ベースライン調査報告書及びエンドライン調査報告書

(2) 乳幼児の保護者らを対象とした乳幼児の食習慣の改善活動

① 成果 2 :

乳幼児の保護者ら(15歳以上の住民)が食事の摂取方法について学び、適切な食習慣を実践できるようになる。

この成果 2 においては、乳幼児の保護者らが上記成果 1 で身に着けた栄養知識に基づき栄養価の高い調理方法(「ココプラス」を利用する調理方法も含む)を実践するようになり、SDGs の目標 2 のターゲット 2.2 の実現に寄与する。また「TICADVI における日本国の取組」の「II 強靱な保健システム促進」の中の、とりわけ「保健の基礎となる栄養状態の改善」に寄与する。

② 成果 2 を測る指標 :【3 年次】

- 1) 乳幼児の保護者を含めた 60 コミュニティの対象人口約 48,360 人²のうち 2 年次から 3 年次終了時までには 20%が調理実習に参加する。
- 2) 乳幼児の保護者を含めた 60 コミュニティの対象人口約 48,360 人のうち 2 年次から 3 年次終了時までには 22%が寸劇に参加(観覧)する。
- 3) 調理実演や演劇実演に参加した保護者らの 50%は家庭内で栄養価を高められる調理方法を実践する。
- 4) 2 歳未満児総人口約 6,240 人のうち約 50%が週 4 回定期的に「ココプラス」を摂取する。

③ 成果 2 の指標の確認方法 :

- 1) モニタリング報告書
- 2) 参加者リスト
- 3) 家庭訪問による直接観察
- 4) 保護者らへの満足度・理解度調査(インタビュー式)
- 5) 「ココプラス」の販売記録
- 6) ベースライン調査報告書及びエンドライン調査報告書

(3) 女性の経済的エンパワメント

① 成果 3 :

女性が家族の福祉の向上のために収入創出活動に参加できるようになる。

この成果 3 においては、VSLA メンバーの女性起業家の収入が向上し、自らの収入についてコントロールでき、また家計の用途にかかる決定権を持てるようになることで、SDGs の目標 5 のターゲット 5.1 及び 5.5 の実現に寄与する。また、VSLA の主に女性メンバーが VSLA から貸付を受けるようになることで、目標 1 のターゲット 1.4 にも寄与する。また「TICADVI における日本国の取組」の「I 経済の多角化・産業化」の中の、とりわけ「女性のビジネス参画を促すため、女性起業家を対象にしたマイクロクレジットの実施」に寄与する。

② 成果 3 を測る指標 :【3 年次】

- 1) 年に 60%の VSLA 女性メンバーが VSLA から借入する。
- 2) 50%の女性起業家が「ココプラス」の販売を通して収入の向上を実感できる(月間売上高の平均 GHS56 以上/利益の平均 GHS7 以上)。
- 3) 30%の VSLA 内女性起業家が家計の用途について配偶者と共同で決定する。
- 4) 30%の VSLA 内女性起業家が自らの収入を自分の意思でコントロールする。

² 対象 60 コミュニティの全人口約 78,000 人のうち、調理実演や寸劇が対象としているのは、15 歳未満の子どもを除く成人男女。15 歳未満の人口約 38%、15 歳以上の人口約 62%であり、対象人口数は約 48,360 人(78,000 人×0.62)。

③ 成果3の指標の確認方法：

- 1) モニタリング報告書
- 2) VBEs へのフォーカスグループインタビュー
- 3) VBEs の夫とのフォーカスグループインタビュー
- 4) 家庭訪問による直接観察
- 5) 栄養補助サプリメント「ココプラス」の販売記録
- 6) ベースライン調査報告書及びエンドライン調査報告書

(4) 事業終了後の持続性

①コミュニティの栄養啓発員の継続的な働きかけ：

乳幼児の栄養改善に必要な知識と実践方法を事業終了後も受益者の間で保持してゆくためには、継続的な働きかけの仕組みをコミュニティ内に有していることが鍵となる。本事業では、事業開始時から、子どもの栄養改善は地域全体で解決すべき課題であるという意識をコミュニティ全体で共有することに尽力してきた。関係者への意識付けのため、コミュニティでの理解促進や動員には時間をかけ、事業への参加意識を醸成してきた。本事業で育成した栄養啓発員と女性起業家についても同様のアプローチで臨み、研修への参加や啓発活動を担うにあたり、謝金や参加費といった金銭的な動機付けに頼ることなく、コミュニティ内で果たす自分達の役割の重要性によって参加意識を醸成してきた。これら意識付けは事業効果の持続性に大きな強みとなり、栄養啓発員や女性起業家が、それぞれのネットワークを有効に利用し続け、コミュニティ内で栄養メッセージを継続的に発信することが期待される。

具体的な発信の場として想定しているのは定期的なコミュニティ会議である。現在、栄養啓発活動はコミュニティ会議が開催されるタイミングに併せて実施している。コミュニティ会議では多くの住民の参加が期待できることからより多くの人々に栄養啓発メッセージを伝播することが可能な点と、会議には、コミュニティのリーダーや保健局を含めた地方政府スタッフが同席していることから、コミュニティのキーパーソンへの栄養啓発についての理解の促進が図れるという点で、有効な場となり得るからだ。会議には多くの住民が動員できるとともに、栄養啓発員自身もコミュニティ会議へは住民の一人として参加が促されていることから、元栄養啓発員が定期的なコミュニティ会議の場を事業終了後も利用することで、重要な栄養メッセージを発信してゆくことができる。更に、栄養啓発員の中でも、保健局のボランティアである CHV は、保健局が定期的開催する幼児の予防接種や健康チェックに住民を動員させる役割を果たしている。CHV がその役割を活用し、予防接種や健康チェックの開催と併せて、乳幼児の保護者らに栄養啓発メッセージを発信してゆくことも可能である。

②ソーシャル・ビジネスとしての継続的な栄養普及：

もう一方で、ソーシャル・ビジネスとして、栄養啓発メッセージが継続的に発信されることも期待される。栄養普及を担ってきた関係者の中でも、とりわけ女性起業家については、「ココプラス」の販売が彼女達の安定的な収入源になることが、女性起業家による「ココプラス」の継続的な販売にも繋がる。「ココプラス」の販売には、購入者への栄養啓発メッセージの伝授が伴う。つまり、販売の継続は、栄養普及の継続をも意味する。ソーシャル・ビジネスとして成立させることで、栄養啓発メッセージがより長期的にコミュニティで普及することが可能となる。ソーシャル・ビジネスとして成立するためには、当面、女性起業家が属する VSLA の継続的な運営が要となる。上記「7. (2) これまでの事業を通じての課題・問題点と対応策」でも詳述した通り、VSLA の中には NGO による介入の終了とともに、活動が不活発となるケースもある。よって、CARE では、VSLA の設立・運営支援は1年次で終了したが、3年間の事業期間を通して、運営体制の整備をフォローしてゆくとともに、女性起業家への助言を行い、VSLA の更なる基盤強化にあたる。具体的には、各 VSLA の定期会合や配当金の

配当時には、CARE のプロジェクト・ファシリテーターと現地パートナー団体 PARED のスタッフが立ち会い、VSLA の運営ガイドラインに則り会合や配当が行われているか、また、議長や書記、会計担当等の役割をそれぞれの VSLA メンバーが果たしているか等、見てゆく。このフォローアップによって、それぞれの VSLA の弱い部分が確認でき、都度、必要な技術支援を行い、併せて女性起業家への助言も行う。

将来的には、ソーシャル・ビジネスとして成り立たせることに成功した女性起業家が VSLA を卒業し、かわりに他の女性起業家が VSLA の組織基盤を活用して「ココプラス」の販売と栄養普及を担うといった人の入れ替わりによって、世代を超え栄養普及がコミュニティで継続されてゆくことも期待される。

③事業終了後の郡保健局によるモニタリング：

本事業で実施する活動の内、例えば、栄養啓発活動の実施においては定期コミュニティ会議の場を利用する等、カウンターパートである郡保健局や地方政府スタッフも同席する場を活動の場とすることで、彼ら彼女らの活動への直接参加と理解促進を図る取り組みをしている。このような働きかけによって、郡保健局による事業終了後 1 年間の定期モニタリングの約束を郡保健局から取り付けている。郡保健局からのモニタリングレポートの共有等、具体的な約束事項については、今後、詳細を詰め、最終的には覚書の形で残してゆくことを想定している。